

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ラオスにおける障害者に対する職業訓練等による就労支援を通じ、障害者の社会的・経済的自立を促進する。併せてそのための職業訓練指導員を養成する。
(2) 事業内容	2012 年 6、7 月 ・ 第 2 期車椅子製造研修準備 第 1 期車椅子及び福祉機器の製造・修理・販売事業は順調に推移し、ラオス就労支援センターは顧客にも周知の場となっている。近隣には既に研修員が起業した車椅子修理の店舗もあり、当就労支援センターと協働し事業の推進を図っている。特に第 2 期からは当就労支援センターは車椅子製造・修理・販売の展示ルームとして機能を始めた。1 階前部分を車椅子・福祉機器を展示。継続事業のためラオスの一般顧客からの車いす・福祉機器の購買・修理の問い合わせは引き続き多く、特に歩行器や杖、レンタル車椅子等の需要が高い。ラオス人スタッフ及び研修員が OJT の一環として当就労支援センターにおいてセールスチームとして顧客対応をしておりビジネススキルを習得している。 ・ 美容研修、ベーカリー研修の準備 美容は仮想店舗を先に当会 ADDP が設置（自己負担）。研修後に研修員が OJT を行える場所として機能させ、後々に研修員が自立・独立できる店舗としてマイクロクレジットローンでの事業として切り替える予定。ベーカリーは当会就労支援センターにて研修実施。 ・ 各研修内容打ち合わせ、準備、研修生募集 ラオス障害者協会 (LDPA)、シークッド職業訓練校と連携し、また、ビエンチャン市近隣の村にある障害者グループをいくつか訪問し、研修生を募集した。 2012 年 8 月-11 月 ・ 第一回車椅子製造研修開催 8 月 8 日～17 日 9 日間 研修生 6 名、ラオス人講師 2 名（当センター研修・技術訓練担当スタッフ）、タイ人講師 1 名。 タイで車椅子会社を営んでいるタイ人障害当事者をスーパーバイザーとして招き、ラオス人障害当事者 6 名に対して、車椅子製造研修を行った。研修生はシークッド職業訓練校の卒業生、村の障害者グループに所属する人、他県に住む障害当事者である。前半 4 日間は車椅子製図、後半 5 日間で車椅子を 2 台製造した。 研修後は希望の進路を聞き、シークッド職業訓練校に入学したい研修生には職業訓練校と連携を取り、入学斡旋をした。 ・ 第一回美容研修開催 8 月 13 日～16 日 4 日間 研修生 6 名、日本人講師 1 名、タイ人講師 1 名、ラオス人アシス

タント 1 名。

日本人美容専門家を招き、ラオス人女性障害当事者 6 名を対象に美容技術を習得する研修を行った。研修生は全員ビエンチャン県出身で、家業の手伝いとして少し美容院に関わったことがある者及び他は未経験者であった。1 日目に日本の接客方法を伝え、その後、シャンプー技術指導を中心に研修を行った。

・ ルアンパバンにおける就労促進セミナーの開催 (2 日間)

8 月 21 日、22 日 (2 日間)

(障害当事者 20 名、ルアンパバン県関係者 5 名、ルアンパバン近郊の企業関係者、ろう学校、職業訓練校等関係者 10 名が参加)

ルアンパバン及び北部ラオスにおける障害者就労の実態を調査、当会ラオス障害者就労支援事業の紹介、日本の障害者就労の現状の紹介、ラオス障害者協会ルアンパバン支部との意見交換、ルアンパバン県教育局、労働局との意見交換等を行う

・ 第一回ベーカリー研修開催 8 月 26 日～29 日 4 日間

フォローアップビジネス研修 8 月 30 日～31 日 2 日間

研修生 5 名、日本人講師 1 名、タイ人講師 1 名。

当就労支援センターにおいて日本で店舗を構える日本人パティシエを招き、ラオス人障害当事者 5 名を対象にクッキー、カップケーキ作りの研修を行った。また、タイ人講師からは近隣国のタイの経験から実際に障害当事者が作っているクッキー等をいかにマーケット調査しラオスで販売していくかという具体的な方法論を学んだ。障害者研修生は村の障害者グループに所属する人や、知的障害者施設の障害当事者スタッフ。ビエンチャンにある知的障害者施設 (50 人の知的障害児・者の学校・日中活動促進団体) の職員は施設でクッキー製作・販売を始めたいという強い希望があり、本研修はラオスでは初めての障害者向けベーカリー研修のためにぜひ参加したいとの強い希望が示された。クッキー 3 種類、カップケーキの作り方、販売方法等の研修を包括的に行った。

・ 第二回美容研修開催 10 月 2 日～5 日 4 日間

事前研修 9 月 26 日～10 月 1 日 7 日間

研修生 6 名、日本人講師 1 名、タイ人講師 1 名、ラオス人アシスタント 1 名。

日本の美容業界で実際に活躍する美容師を招き、ラオス人女性障害当事者 6 名を対象に基礎的なカット技術を習得する研修を行った。研修生はサイニャブリー県の障害者当事者協会から紹介された人や、チャンペンセンターの卒業生である。シャンプー技術、基礎的なカット技術を習得する研修を行った。

第二回美容研修はカット技術の研修であったため、1 週間前に研修生たちにワークショップに入ってもらい、シャンプー方法の指導、ビジネス接客応対等の基礎研修をタイの美容指導員の下で事前研修を行った。

	・ 研修以外の期間 研修以外の期間は希望する研修生を対象に、当会就労支援センター及び仮想就労の場（美容ショップ）において、実際のビジネス訓練として、当団体のラオス人職業訓練スタッフと共に、将来の起業、就業に向けて、経験を積む OJT トレーニングを実施している。
(3) 達成された効果	・ 第一回車椅子製造研修生 6 名のうち 1 名が当センターのワークショップでの車椅子製造修理訓練を継続、3 名が就業し、2 名をシークッド職業訓練校に紹介し、現在、職業訓練校で学んでいる。卒業後は就労予定。(就労率 50%) ・ 第一回美容研修生 6 名のうち 3 名が仮想店舗で OJT を継続し、3 名は一般就労した（1 名、ラオス障害者協会専任スタッフ、2 名はアクセサリー等を売る小売業）。(就労率 50%) ・ 第一回ベーカリー研修生 5 名のうち 3 名が当センターのワークショップで OJT を継続し、2 名が自宅に戻り、就業している。(就労率 40%) ・ 第二回美容研修生 6 名のうち 2 名が仮想店舗で OJT を継続、3 名が故郷に戻り起業し（美容関係）、1 名が地方の故郷に戻り障害者当事者協会（LDPA）地方支部に就職した。(就労率 66%) 注：当会仮想店舗で OJT を行っている研修生は訓練後就労に移行できる候補者であるため就労率は更に上がる予定。 ・ 美容の OJT 実施中のビエンチャン仮想店舗には近隣の住人を中心に、11 月現在で延べ 487 人の来客があり、継続的に充実した OJT を行う環境が構築できた。障害を持つ女性たちが立ち上げた美容院としてビエンチャンで口コミ評判となっている。また本仮想店舗を通じて障害のない一般の地元の人々が障害当事者と関わることで、障害者との相互理解、社会啓発の場として本美容院は機能している。研修生の障害種別は聴覚障害者、ポリオ、脳性まひ、車椅子利用者と多岐にわたり、女性障害者の就労は男性に比べてまだまだ困難な場面も多々あるものの当研修生が研修を通じて女性障害者のロールモデルとして生き生きと仕事をし、経済的自立の喜びを見出している。研修生を通じて本事業の意義も多く、ラオスの障害者の知るところとなり研修に参加したいと希望する女性障害者からの問い合わせが多くある。

(4) 今後の見通し	・車椅子製造研修を今後 1 回、美容研修を 1 回、ベーカリー研修を 2 回実施する予定である。 ・現在、仮想店舗で OJT トレーニングを受けている研修生を指導員として養成する。 ・車椅子製造・修理・販売の事業において、特に販売・PR 促進活動をより積極的に行い、現在ビエンチャンの数々の病院で長い間使われている古い車椅子のメンテナンス・修理等を委託される予定である。 ・美容部門の技術の質を上げ、さらなる地域住民の顧客を獲得し、より充実した OJT 体制を確立させる予定である。 ・ベーカリー部門も製造されるクッキーの質が高くなってきており、本格的に販売促進活動を活発化させ、当会の事業に賛同しクッキー販売に興味をもっているカフェ、ホテル等への PR 販売を軸に、安定した顧客を獲得し、より多くの研修生の経済的自立につながるために市場のニーズに即した研修を行う予定である。
-------------------	--